

2023 年度 駒沢女子大学

# 「学修到達度の確認」実施報告書

4 年終了時確認報告書

教育指針に関する検討委員会

## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
32名	36名	88.9%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	10	31.3%	20	62.5%	2	6.3%	0	0%	3.25
	人間性	9	28.1%	21	65.6%	2	6.3%	0	0%	3.22
DP2	コミュニケーション力	8	25.0%	11	34.4%	12	37.5%	1	3.1%	2.81
	社会性	9	28.1%	18	56.3%	5	15.6%	0	0%	3.13
DP3	専門力	10	31.3%	16	50.0%	6	18.8%	0	0%	3.13
	判断力	9	28.1%	12	37.5%	10	31.3%	1	3.1%	2.91
DP4	技術力	5	15.6%	16	50.0%	11	34.4%	0	0%	2.81
	実践力	9	28.1%	11	34.4%	11	34.4%	0	0%	2.94

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

2年終了時と比較すると、下記の通り、すべての項目で0.5~0.7ポイント上回った。多くの学生が2年終了時からの伸びを実感しているものの、DP達成に向けたCPとなっているか、DP自体の妥当性も含め検証が必要である。

- ・教養力 2.6→3.3
- ・人間性 2.5→3.2
- ・コミュニケーション力 2.3→2.8
- ・社会性 2.4→3.1
- ・専門力 2.5→3.1
- ・判断力 2.2→2.9
- ・技術力 2.1→2.8
- ・実践力 2.3→2.9

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
なし	なし
なし	なし

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
なし	なし
なし	なし

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
なし	なし
なし	なし





## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
82名	95名	86%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	26	31%	46	56%	8	10%	2	2%	3.1
	人間性	28	34%	45	55%	4	5%	5	6%	3.2
DP2	コミュニケーション力	34	42%	35	43%	10	12%	3	4%	3.0
	社会性	25	43%	35	31%	19	23%	3	4%	3.0
DP3	専門力	22	54%	44	27%	9	11%	7	9%	3.1
	判断力	21	60%	49	24%	10	12%	3	4%	2.6
DP4	技術力	21	26%	34	42%	10	24%	7	9%	3.5
	実践力	21	26%	39	48%	16	20%	6	7%	2.9

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を簡潔に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

2年次と比較した「十分身に着いた」の回答率は次の通りである。（単位％）教養力：20→31.7,人間性：24.6→34.1,コミュニケーション力：23.1→41.5,社会性：16.9→23.2,専門性：12.3→26.8,判断力：6.1→24.2,技術力：10.8→25.6,実践力：10.8→25.6 これらのことから当専攻のDPが達成され、そのためのCPおよびAPも適切であったと考えられる。その一方で4年次の平均点の中では、判断力と実践力が若干低い結果となった。コロナ禍の4年間を過ごしオンライン授業が多かったことが、この結果に反映されている可能性が考えられる。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
社会性	グループワークを取り入れた科目が多いこと、また講義型の科目にも授業中に何度も学生にマイクを回して発言させる科目も多く、学生が互いに働きかけ協力し合って達成する科目が多いためと考えられる。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
判断力	現象の背景となる社会構造および社会の基底に存在する思考法まで掘り下げて考える力、さらに論理的構築力が弱いことが大きな要因と考えられるので、これらの力を伸ばすよう各授業で工夫する余地がまだ残っている。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
実践力	オンラインツールを利用した授業でも効果が上がる方法や仕組みを考える。



## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

### 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
26名	37名	70.2%

### 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	2	7.7%	13	50%	10	38.5%	1	3.8%	2.6
	人間性	14	53.8%	11	42.3%	1	3.8%	0	0%	3.5
DP2	コミュニケーション力	6	23.1%	14	53.8%	5	19.2%	1	3.8%	3.0
	社会性	11	42.3%	9	34.6%	4	15.4%	2	7.7%	3.1
DP3	専門力	2	7.7%	15	57.7%	8	30.8%	1	3.8%	2.7
	判断力	5	19.2%	14	53.8%	6	23.1%	1	3.8%	2.9
DP4	技術力	3	11.5%	10	38.5%	12	46.2%	1	3.8%	2.6
	実践力	9	34.6%	7	26.9%	8	30.8%	2	7.7%	2.9

### 3. 検証結果

<p>〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。 4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。 また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。</p>
<p>(1) 教養力：2年終了時には平均2.2だったが、卒業時には2.6にレベルアップしている。特にレベル3及びレベル4へと到達している学生が多く見られる。</p> <p>(2) 人間性：もともと2年終了時でも平均3.3あった項目だが、卒業時にはさらに3.5にレベルアップしている。</p> <p>(3) コミュニケーション力：2年終了時には平均2.4だったが、卒業時には3.0にレベルアップしている。特にレベル4は2年終了時には1名しかいなかったが、卒業時には6名とレベルを上げた学生が多いことがわかる。</p> <p>(4) 社会性：もともと2年終了時でも平均3.0あった項目だが、卒業時にはわずかではあるが3.1にレベルアップしている。特に、レベル4については2年終了時には8名だったが、卒業時には11名まで増えている。</p> <p>(5) 専門力：2年終了時には平均2.2だったが、卒業時には2.7にレベルアップしている。特に、レベル4については2年終了時には0名だったが、卒業時には2名となった。</p> <p>(6) 判断力：2年終了時には平均2.6だった項目だが、卒業時には2.9にレベルアップしている。特に、レベル4</p>

については2年終了時には2名だったが、卒業時には5名まで増えている。

(7) 技術力：2年終了時には平均2.4だったが、卒業時にはわずかながら2.6にレベルアップしている。ただ、レベル4に注目すると、2年終了時には1名だったものが、卒業時には3名に増えている。

(8) 実践力：2年終了時には平均2.6だったが、卒業時には2.9にレベルアップしている。レベル4に注目すると、2年終了時には3名だったものが、卒業時には大きく9名まで増えている。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	「多様な価値観をどれくらい受け入れられますか？」という問いに対して非常に高いレベルを示している。多様性が叫ばれる時代にあって、そのことを授業等で学ぶ機会もあり、適切に対応できる力が身につけているものと思われる。
社会性	「社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っていますか？」という問いに対して高いレベルを示している。社会における責任や使命感というものを意識できる社会性が身についたものと判断する。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
技術力	「世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい応用できますか？」という問いに対するレベルが若干低いように思われる。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
技術力	専門知識という意味では、英語力や資格の有無も関係するものと思われる。自由記述の中で、TOEICや英検を積極的に受験し、確実に力を伸ばしたり、資格を取得している学生もいる。今後、学生に対して自ら目標を設定し、それを実現していくよう指導することが肝要と思われる。



## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
61名	62名	98.4%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	17	27.9%	41	67.2%	3	4.9%	0	0%	3.28
	人間性	33	54.1%	28	45.9%	0	0%	0	0%	3.54
DP2	コミュニケーション力	26	42.6%	34	55.7%	1	1.6%	0	0%	3.41
	社会性	20	32.8%	38	62.3%	3	4.9%	0	0%	3.32
DP3	専門力	23	37.7%	37	60.7%	1	1.6%	0	0%	3.36
	判断力	21	34.4%	36	59.0%	4	6.6%	0	0%	3.28
DP4	技術力	16	26.2%	42	68.9%	3	4.9%	0	0%	3.26
	実践力	20	32.8%	39	63.9%	2	3.3%	0	0%	3.30

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

各項目ともに平均値で3以上であり、全般的に教育目標に対する高い到達が自覚されていた。特に、人間性とコミュニケーション力は多くの学生が目標に達していると判断していた。

2年終了時は3段階評価で調査したため、単純比較はできないものの、「まだ達成していない」と回答した学生が技術力では58.7%、教養力では54.2%見られたのに対し、4年次の調査では、すべての項目において未達成は0%であった。

本年度の4年生は改定前のDPに基づき学習到達度の確認を行ったが、概ね良好な達成状況であった。2022年度以降の入学者に対しては、DPを見直し、学生にとってよりわかりやすい表現で改訂しており、今後新たなDPの下での達成状況を見極めつつ、CP、APについても検討したい。ただし、CP、APともに内容に関しては、特に問題ないように思われる。

#### 4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
人間性	<p>DP2の人間性「多様な価値観を受け入れ、ホスピタリティ精神を創造的に実現することができる」に関しては、インターンシップ参加者には、ホスピタリティをテーマにした授業などの履修を推奨するとともに、学外での実習・研修を充実させ、学生が多様な価値観に触れる機会を提供するよう心がけたことにより、学修到達度の平均値が最も高い結果となった。</p>

#### 5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
教養力・技術力	<p>ゼミでの指導などにより、教養力・技術力ともに2年次終了時よりも向上が見られたが、ゼミごとに大幅な差が出ないようにプレゼンテーションやレポート（ゼミ論）などへのフィードバックの機会をより充実させていくことが必要である。</p>
実施及び運用方法	<p>DPの8つの項目に対し、各4レベルを提示し、自分がどのレベルなのかを判断させると、文章が多くなり、煩雑になるため（回答数の減少や適当な回答の増加につながる）、今回はレベル4の状態を提示し、それに対して4段階で評価してもらった。簡易な評価方法と学生の状況の正確な把握の間でバランスをとりつつ、運用方法の改善を検討したい。</p>

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
技術力	<p>各ゼミでの指導結果に大幅な差が出ないように、ゼミ論を毎年教員間で共有している。</p>



## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
名	名	%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	19	29%	36	55%	10	15%	0	0%	3.13
	人間性	23	35%	31	47%	10	15%	1	2%	3.17
DP2	コミュニケーション力	14	21%	30	46%	20	30%	1	2%	2.88
	社会性	15	23%	31	47%	18	27%	1	2%	2.92
DP3	専門力	12	18%	33	50%	18	27%	2	3%	2.92
	判断力	15	23%	31	47%	18	27%	1	2%	2.85
DP4	技術力	17	26%	34	52%	14	21%	0	0%	3.05
	実践力	13	20%	32	49%	18	27%	2	3%	2.86

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- どの項目もレベル3の割合が最も高く、平均値は概ね3.0程度である。
- どの項目も概ね8割以上の学生がレベル3以上を報告しているが、専門力（DP3）および実践力（DP4）についてはレベル3を報告した者が70%に届かなかった。
- レベル1を回答した者は0~3人と概ね少なかった（専門力と実践力のみ2名）
- 2年終了時と比べ、平均値はどの項目も0.4-0.8程度上昇している。
- 以上の分析からは、特に2年時から始まる心理学の専門的学びの観点からは、DP・CP・APが適切に設定されていると言える。
- 2年終了時と比べ、回答割合は飛躍的に向上している（29.4%→77.6%）
- 4年間の学びの感想を書かせた自由記述には、視野の広がり、知見の活用、自己成長、コミュニケーション力や共感力の向上、論理性や技術性の発達、他者理解など、心理学類が掲げた学習指針が満遍なく反映されており、本学心理学類の教育の一貫性・妥当性が示唆された。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
人間力	特に共感性を意図した指針である。平均値としても自由記述からもこの指針に沿った学びを学生が深めていたことが示唆され、本学類の特色と言える。
技術力	心理学を日常に活用する力であり、分析力を含む。これもまた、平均値からも自由記述からも特に学生たちに身につけられた力であったと考えられる。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
専門力	レベル3を報告した学生が70%に届かなかった。
実践力	同上

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
専門力	臨床力など大学院レベルの教育を想定して回答している学生が多いように見受けられる。専門的知識の活用である点を周知する必要がある。
実践力	臨床力など大学院レベルの教育を想定して回答している学生が多いように見受けられる。学部レベルの知の活用で十分である点を周知する必要がある。

## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
61名	63名	96.8%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	5	8.20%	39	63.93%	16	26.23%	1	1.64%	2.79
	人間性	5	8.20%	45	73.77%	9	14.75%	2	3.28%	2.87
DP2	コミュニケーション力	7	11.48%	29	47.54%	21	34.43%	4	6.56%	2.64
	社会性	10	16.39%	34	55.74%	14	22.95%	3	4.92%	2.84
DP3	専門力	10	16.39%	32	52.46%	18	29.51%	1	1.64%	2.84
	判断力	8	13.12%	29	47.54%	23	37.71%	1	1.64%	2.72
DP4	技術力	8	13.12%	34	55.74%	19	31.15%	0	0.00%	2.82
	実践力	8	13.12%	31	50.82%	20	32.79%	2	3.28%	2.74

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- (1) 教養力は同学生の2021年度2年次平均(2.60)と比較して0.19点向上した。
- (2) 人間性の平均点は2年次(2.73)・4年次ともに最高だが、上昇率は8項目中最も低い(0.16点向上)。
- (3) コミュニケーション力は2年次平均(2.29)と比較して0.35点向上し、全体で3番目に上昇率が高い。
- (4) 社会性は2年次平均(2.60)と比較して0.24点向上している。
- (5) 専門力は2年次平均(2.44)から0.40点向上し、全体で2番目に上昇率が高い項目となった。
- (6) 判断力は2年次の平均点が最も低い(2.27)項目だったが0.45点向上し、最も上昇率が高い項目となった。
- (7) 技術力は2年次平均(2.56)と比較して0.26点向上した。
- (8) 実践力は2年次平均(2.44)と比較して0.30点向上した。
- (9) 2021年度2年次平均点と比較してすべての項目で上昇がみられ、特にDP3の2項目の上昇率が高い。
- (10) 上記結果および各項目の平均点に極端な偏差がないことから、CP、APの内容は概ね適切と判断する。

#### 4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
判断力・専門力・実践力	3年インテリアデザインスタジオと建築デザインスタジオで実施した産学連携課題コマジョデコール・コマジョスタイルで企業関係者に対するプレゼンテーションや打合せを行ったことが自己評価の向上に繋がった。
コミュニケーション力	実習授業を中心に行われているエスキスや作品講習会における口頭発表などの機会を重ねたことが評価の向上に結実した。特に卒業研究の履修学生は3回の口頭発表の機会を通して自己評価が向上した。

#### 5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
コミュニケーション力	上昇率は最も高いが、平均点は最低となった一因として、コロナ禍で入学した低年生時における教員や学生同士と対面での意思疎通の機会減少がある。
実施及び運用方法について	比較的成績の良い学生ほど控えめな評価を行い、その逆も然りといった傾向が依然としてある。客観性の高い自己評価とするための検討が必要。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
コミュニケーション力	今後は少人数クラスで個人発表の機会を増やす等、対策を検討する。
実施及び運用方法について	各学生に2年次の到達度回答内容を4年次の回答時に参照させることで、自身の到達度を振り返り、客観的な評価に繋げる。次年度からの実施を検討。









## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
84名	58名	69.0%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	6	10.3%	35	60.3%	15	25.9%	2	3.4%	2.78
	人間性	9	15.5%	35	60.3%	13	22.4%	1	1.7%	2.90
DP2	コミュニケーション力	10	17.2%	32	55.2%	15	25.9%	1	1.7%	2.88
	社会性	9	15.5%	31	53.4%	18	31.0%	0	0.0%	2.84
DP3	専門力	14	24.1%	35	60.3%	8	13.8%	1	1.7%	3.07
	判断力	6	10.3%	31	53.4%	21	36.2%	0	0.0%	2.74
DP4	技術力	6	10.3%	34	58.6%	18	31.0%	0	0.0%	2.79
	実践力	10	17.2%	31	53.4%	15	25.9%	2	3.4%	2.84

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

多くの学生は学修到達度がレベル3程度と自己診断していた。特に「専門力」については最高値の「レベル4」と評価する学生が最も多く、平均値も3.07と全8項目の中で最も高い値を示した。「設問11」の自由記述においても「専門的な知識を身につけることができた」という肯定的な記述が多く見られた。本学部が管理栄養士という専門職の養成を目的とする学部であることを考慮すれば、この結果は望ましいものと考えられる。一方、1、2年次が遠隔授業となったことで、「基礎知識の不足」や「学習意欲が低下した」という記述が見られた。この点は対面授業によって改善するものと思われる。

また、多くの学生が自身の学習到達度をレベル3程度と認識していることから、DP達成に向けたCP、APの適切性にも問題はないと考えられる。

なお、学修到達度の確認を行う学年を2022年度に変更した関係で、前回調査結果との比較は行っていない。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
	特になし

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
判断力	能力を身に付ける機会が少ない。「卒業研究」が必修でないことが影響していると考えられる。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に行っている場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
判断力	実験・実習において先行研究に対する批評の機会をもうける。





## 2023年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
72名	80名	90%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	3	4.2%	50	69.4%	16	22.2%	3	4.2%	2.74
	人間性	35	48.6%	24	33.3%	13	18.1%	0	0%	3.31
DP2	コミュニケーション力	31	43.1%	32	44.4%	8	11.1%	1	1.4%	3.29
	社会性	24	33.3%	36	50.0%	11	15.3%	1	1.4%	3.15
DP3	専門力	11	15.3%	50	69.4%	9	12.5%	2	2.8%	2.97
	判断力	14	19.4%	45	62.5%	10	13.9%	3	4.2%	2.97
DP4	技術力	7	9.7%	45	62.5%	17	23.6%	3	4.2%	2.78
	実践力	10	13.9%	45	62.5%	14	19.4%	3	4.2%	2.86

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

2022年度卒業生の評価結果は全ての項目の平均値が3.0以上であり、それと比較すると2023年度においては、平均値3.0以上が3項目に留まり、全般的に低い結果となった。本年度卒業生はコロナ禍の2020年に入学し、オンライン授業での学修が多く、看護実践のための演習や実習という学修機会が制限されていたことが、「技術力」「実践力」の低評価と関連していると思われる。

しかし、当該学年が3年前期に確認した到達度(コミュニケーション力・専門力・判断力・技術力・実践力)と比較すると、全ての項目で平均値は上昇しており、臨地実習の学修成果の向上が認められる。特に、コミュニケーション力2.43→3.29、専門力1.82→2.97、判断力1.84→2.97と1ポイント以上も上昇しており、3年後期から4年終了時までの学修成果が大きいと考えられる。

CPとして科目区分を「教養教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」とし、3年後期から集中的に開講する領域別臨地実習がコミュニケーション力や専門力・判断力の向上に関連し、「看護職として貢献する意思のある人」というAPも実習を滞りなく学修する上で適切であると考えられる。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
なし	

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
なし	

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策







2023 年度 駒沢女子大学

**「学修到達度の確認」実施報告書**

4 年終了時確認報告書

2024 年 9 月 12 日

教育指針に関する検討委員会